

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月27日

学校法人小牧外山学園 とやまこども園

1. 本園の教育理念及び教育目標

気づき合い、共感しあうやさしい心、一人ではできない仲間との協働、創造する力を育む。
自分で考え行動し、なかまと共に育ち合う

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

子どもと共に考え合い、遊びや環境を充実させていくために、環境についての知識を深め実践していく。
保育の意図や願いを、保護者の方々にも理解を深めていただけるよう、伝え方を見直し改善していく。
乳幼児の担当にかかわらず子ども理解を深め連携を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	具体的な取り組みと自己評価
1	保育環境 子どもと共に考え合い、遊びや環境を充実させていくために環境について知識を深め、出来る事から実践していく。	ドキュメンテーションを子どもが見やすいよう保育室に掲示し、遊びを振り返ったり、友達の遊びを知ることで刺激を受け合ったりする環境を整えた結果、遊びがさらに広がった。毎日のミーティングに加え、朝の環境設定の時間にも子どもの姿を語り合いながら、再構成を行ったことで、コーナー遊びを充実させることができた。また、乳児クラスでは場所担当制など研修で学んだことを実践し、より良い保育につながることができた。
2	保護者対応 保護者に対して、日々の保育についてさらに理解を深めていけるよう、園全体でその都度見直し、改善していく	ドキュメンテーションはその日の内容で終わらせるのではなく、遊びを継続して記録を行うことで、遊びや学びの変化を伝えやすくした。また、何気ない保護者との対話や直接顔を合わせてのやり取りを大切にすることで、保護者の考えや悩みに触れたり、共に子どもの成長を喜び、信頼関係を築いたりすることができた。
3	職員間の協力・連携 乳幼児の担当にかかわらず、園全体で子ども理解を深め、育ちを認め合い、課題に対してみんなで考えられるよう、ミーティング等を活用して連携を図る。	全員参加にこだわらず、時間設定し、テーマを決めてミーティングを行ったことで、理解を深めることができた。また、幼児担当では全体ミーティングの前に、学年ミーティングを取り入れたことで、子どもの育ちを共有したり、より良い保育ができるように考えを伝え合ったりでき、学年間の連携が深まった。3学期から乳児、幼児合同のミーティングを週1回行ったことで、お互いに気かけたり、助け合ったりする関係性を築けた。

4. 総合的な評価結果

・ドキュメンテーションを保育室に掲示し、子どもたちと共有したことにより、遊びを振り返ったり、他の子は何をしているのか見たりすることで、さらに刺激を受け、新たな挑戦をしようとする姿につながった。子どもたちのやりたいという思いや興味、関心に寄り添いながら、共に環境を再構成し、わくわく楽しめる空間を考えることで、保育を充実させることができた。 ・子どもの遊びの継続性を捉え、遊びがより深く、より広がりのある学びへとつながっていくことを、ドキュメンテーションを通して伝えた結果、保護者の方々に日常の遊びや生活が行事へとつながっていくことへの理解が深まったと考える。 ・学年と全体ミーティングを分けたことで、一人一人の子どもの姿や保育者の様々な悩みや困りごとについて語り合い考え合うことができ、より一層の子ども理解と連携が図れた。乳児担当ではテーマを決めてミーティングを行うことで、有意義な時間となった。また、乳児と幼児の合同ミーティングを週に1回行ったことで、お互いの子どもの成長や試みを知るきっかけとなった。今後もより良い方法を見つけて、改善していきたい。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	保育環境	環境についての知識をさらに深め、子どもたちと共に考え合い、実践していく。
2	保育者としての専門性	乳幼児の発達を見通した学びや育ちの理解について、研究・研修を行う。
3	子育て支援	保護者と共に、子どもの成長を喜び合えるよう寄り添っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

・子どもたちの遊ぶ様子を参観し、家庭的な雰囲気の中でとても安心して過ごせていると感じた。 ・子どもたちの遊びの中で、上手いかずつまずいた場面では、保育教諭がすぐに答えを伝えるのではなく、子どもと一緒に考え、周りの子どもたちと共に試行錯誤できるように声をかけており、考えて気付くことを大切にしていることが伝わった。 ・虫や草花など自然に触れる環境が整っており、不思議に思ったことについては図鑑がすぐに手に取れるスペースがあり、そこで伝えあったり考え合ったりする姿が見られた。好奇心や探求心をもち、身近な事象への関心が高まる工夫がされていた。 ・子ども主体の保育を継続しながら、危険なことを知らせる言葉のかけ方の工夫や、保育教諭の遊びの発信の仕方など、さらに研鑽していったほしい。
--